



高山彦九郎先生百五十年記念

石者字有...
...

二十一日...
...

二十二日...
...

二十三日...
...

二十四日...
...

二十五日...
...

高山彦九郎先生遺徳顯彰會

二十五日...
...



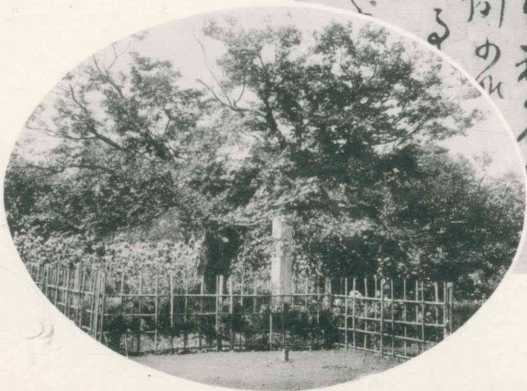
(町田太縣馬群)

社神山高社縣



寛政四年壬子正月
 元日辛未 皇考肥後
 国熊本城下萩在
 春王迎不麻上下々々
 以の力を仰しおそめ
 たをよき家として慎んで
 帝京の御所を
 法神の御所を
 及び御所の
 名を福とす
 清
 寛政主
 四方山

部 一 記 日 京



高山彦九郎先生
 宅 址
 (群馬縣太田町)

高山正生像



我古之木羅洋寫

高山彦九郎先生肖像

百五十年祭記念

高山彦九郎先生繪葉書解説

高山彦九郎先生之肖像と稱さるゝもの數あれど、何れも確實なるものなし。本圖は高山操志よりとれるものにして金井之恭が先生の子孫の相貌を我古山人によりて寫し畫かしめしものなり。以て稍々信を置くに足るべきか。先生天下を跋渉し、志士と交遊す。旅羈必ず日記あり。寛政四年正月元日より同五年六月二十六日迄の筑紫日記の一部にして、現存し且六月二十六日は先生自刃の前日にして日附のみ記しあり。即ち、同日記巻頭の一節を掲ぐ。

寛政四年壬子正月元日辛未曇る。肥後國熊本城下萩家に春を迎ふ。麻上下にて、明の方を拜し、おそれミ、おそれミ、敬ミ、慎ミて、

帝京の方を拜し奉りて、諸神の拜、祖先の拜に及ぶ事例の如し。雑煮など祝ふ事替る事なし。讀める

寛政壬子元日 正之

四方山のかすみ長閑に春の來て帝都の空にむかふ嬉しさ因に筑紫日記は其の大部分長野の縣村矢島家に藏され、寛政四年七月十二日より同年八月二十六日迄の分は東京向島區有馬家に傳へらる。

高山神社は新田郡太田町に在り。明治十一年の創建に係り同十三年縣社に列す。現社殿は昭和七年改築竣工せるものなり、又宅趾は同町大字細谷字中に在り。本家蓮沼氏邸に接し廢井、老械のみ當時の面影を偲ばしむるのみ。蓮沼氏邸の西に連れる蓮沼、高山兩家の墓地中に先生の遺髮冢あり。同墓地は又先生が祖母君の三年の喪に服し給ひし所なり。宅趾及遺髮冢を中心とせる墓地を合せて昭和六年文部大臣より史蹟として指定せらる。

尙繪葉書説明の「京日記一部」は「筑紫日記一部」の誤りなり。又高山家の家紋は辮紋及鶴之丸紋なり本表紙には辮紋を使用せり。